

令和 6 年度

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホーム フクちゃんハウス		
所在地	〒021-0901 岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	令和6年11月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居するにあたって利用者様がどう生活していくか、どう思いを寄せ生活を営んでいくかという気持ちを入居時から大切に、もうひとつの我が家があるという気持ちに近づけていけるよう支援しています。不安もあり、慣れない環境の中で自分としての戸惑いも大きい中で過ごす時間をどうやって自分のスタイルに変えていくかという気持ちも大切にしています。生活に不自由さを感じさせない為にも、何が出来て何に不自由しているかという分析も行いながら不安解消、出来る喜びを生活支援の中で取り入れながら毎日変化していく気持ち、機能を早期に改善出来るよう職員間で連携し、利用者様本人が「何で」という言葉(不安表現)が出来るだけ出ないように見極めながら安心に変化させています。機能維持にも繋げながら出来ないことと本人が思う事への挑戦と出来た達成感を本人の喜びとしながら、自分らしく楽しい生活を送って頂けるよう支援しています。些細な気づきから本人としての不安や、焦燥感も捉えながら今だけではなく、その後の事にも着手しながら支援しています。利用者様同士がお互いに支え合い、助け合いながら毎日生活しています。コロナ5類感染症に移行後、緩和された対応を計っているがまだまだ制限している部分が多い中、ご家族の協力は大きな支えとなっている。事業計画の中で利用者の声がどれだけ生活の中で大切かという事も会議等通じて確認しています。いつも同じという捉え方では前には進めず、常に次の事も考えながら支援している現実もあります。職員会議を利用しての自己研鑽も大切にし、個々に調べる事で能力向上にも繋げ、情報共有する事の意義にも繋がっています。職員が同じ方向を向く事で入居者様が戸惑いや、不安とならない為にも、視点の大切さ、話す事での安心感、ゆとりを大切に、もうひとつの我が家と話して頂けるよう努力しています。いつも同じという概念を外す事、これが次のステップに望める職員個々の視点・視野を高める一助となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、社会福祉法人柏寿会が特養やデイサービス事業所などと一体的に整備されたグループホームで開設から20年を迎えている。現在、特養は他の場所に改築されているが、同じグループ内での協力関係があり有効に活用されている。今年度から新しい管理者となり、事業所の理念を基本に据えて職員が一体となって介護支援にあたり、利用者や家族からの信頼も厚い。コロナ禍で感染症拡大防止に注意を払っており、外部からの入室等に制限はあるものの、外出制限は緩和しており、家族による通院以外での外出も行われている。敷地内で家族を招いての花火大会や食事が美味しいなどの評価も高く、コロナ禍明けを見据えて、更なる改善を目指す意欲もあり、利用者にとっての第二の我が家として更なる安心が得られることの期待が持てる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人がどういう施設に行きたいか、どう利用者が生活をしていくかという事を踏まえ、個々に考えた理念にしている。年1回年度始めの会議にて確認し合い日々の仕事に反映させている。施設の玄関に掲示し、法人理念も共有し仕事に活かしている。利用者が安心して生活して頂けるもうひとつの我が家を大切にしている。	平成16年の開設時に管理者と職員が話し合ってまとめた理念は、「和」を冒頭に掲げ併せて4項目の介護サービス提供の心得を示したもので構成されている。理念は年度初めに全員で確認するとともに、職員が常に目に出来る場所に掲示されている。理念は介護に当たっての基本的な姿勢として定着し、家族の信頼にも繋がっている。また、毎年度、処遇の目標と利用者の声を反映した生活目標を立て、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ5類感染症に移行後、緩和された対応を計るが法人内での決定事項に基づき、地域との関わりは施設外での交流はややあるものの、施設内での交流は行えておらず。以前は年間計画を立て慰問であったり、地域行事にも参加させて頂いていたが、今後は感染状況に注視し、状況に応じ法人内・事業所内で見直して行かなくてはならない。	新型コロナウイルスが5類に移行後も、事業所内での感染があり、法人として外部との交流が制限されている。そのため以前のようなボランティアの受け入れ、幼稚園児との交流は行っていないものの、10月には、防災協力隊も参加した防災訓練を実施した。自治会に加入しており、市の広報や部落の広報が全員分届けられている。清掃活動には、事務職員が対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ5類感染症に移行し、幾らかでも状況は緩和されたが、まだまだ地域との行き来が少なく、認知症に関しての取り組み内容、認知症に関して纏めたものをお渡しし参考にして頂く部分あるが、どこまで地域に貢献しているかははっきり分らず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、地域、家族、行政、利用者、職員の構成で実施している。コロナ5類感染症に移行後も、引き続き書面開催となっている実情もあるが、ホームでの出来事、研修資料等を配り情報提供している。資料を頂き、勉強にもなりますという声も聞かれている。	法人として、感染症拡大防止の観点から、事業所内に外部の方が入られることを心配し、現在も書面会議としている。2か月に1回のペースで各メンバーに資料を持参して報告し、意見の聴取に努めている。かつて非常口の段差を心配する意見があり、スロープを付けるなどの対応に結びついて事例もある。	次回の運営推進会議の開催に際しては、会場を工夫するなどして集合形式での開催を検討することが望まれます。また、書面会議を継続する場合には、課題を提示して広く意見をいただく工夫を講じられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を書面開催し、行政から必要に応じ情報提供して頂いたりしていた。事業所からその都度、確認事項(個別案件も電話、訪問し相談等)が発生した場合は電話確認したり、担当者の元へ足を運び確認させて頂いている。	市の担当者を訪問することが多く、直接お会いして必要な情報提供をいただくとともに、助言等もいただいている。運営推進会議委員でもある地域包括支援センターの職員とも連携している。メールでの連絡、電話相談もあり、緊密な協力関係ができています。	

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し年間計画を立て実施している。委員会で検討した事を職員会議で研修会を行い職員個々が把握するようにしている。身体拘束定義確認表を活用しその場の研修だけでの理解ではなく、日々毎日チェックし拘束をしない支援を徹底している。又、年2回運営推進会議を活用し地域、家族の方々にも研修を自分の立場、家族の立場から考えて頂くように努めている。	身体拘束廃止の指針を定めており、職員は毎日、身体拘束定義確認表をチェックし、身体拘束の無い介護を実践している。3か月毎に委員会、研修会も開催し、禁句マニュアルも作成している。特に、言葉による抑圧等のスピーチロックについては、利用者の声を職員会議で紹介し、相互牽制に努めながら、ゆとりを持った声掛けの仕方を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待について資料を基に説明し共有を図っている。又、禁句マニュアルを作成し毎年マニュアルの見直しをかけながら職員の意識向上、自分の言葉が本当に正しいのかという事も考え支援している。家族様に対しても常に利用者が不安とならないよう出来るだけ情報提供し相互共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて資料を基に説明をしている。研修の一貫として取り組み毎年振り返りながら全体での知識、情報共有に繋げている。研修を行った資料については、行政、地域、家族様へ提供しお互いに理解して頂けるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明、契約、また変更時に速やかに家族への報告、説明を行うことで理解・納得して頂き、その都度契約書等の取り交わしを行っている。また、規定変更等の際は随時書面にて説明し確認書の取り交わしを行っている。家族様より個別的に相談等も多くありその内容に応じた説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に合わせて事前に意見・要望を伺ったり、面会時等に改めて意見、要望は伺っている。玄関前には相談箱を設置している。要望、意見については職員間で共有し改善出来る事、継続出来る事等様々な視点から考えながら運営に努めている。	利用者からの声は職員会議、申し送りノートなどで共有し、反映させることに努めている。家族の意見をいただくため、以前はアンケート調査を行っていたが、令和2年以降中断しており、来年度の実施を検討している。家族の方々が協力的で感謝しているが、それに甘えることなく意見等をいただいで対応したいと考えている。家族の要望の主な物は、利用者の体調管理や本人の意向を出来るだけ叶えてほしい等である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、年2回(夏・冬)の個人面接の際に、今、自分が思う事、どうすれば施設が良くなるか等相談したり「こうしてはどうか…」という思いも多くなってきている。風通しの良い関係性を構築する事で職員が活き活きと仕事ができるよう努めている。毎月の職員会議を有効なものとし、職員個々の意見を引き出し、その意見・思いを運営に生かしている。	普段の業務の中や職員会議の場などで意見や提案が出されており、職員間で話し合っている。職員が不足している状況もあり、効率的に買物をまとめて行っている。職員個人の相談については、年2回個別面談の機会があり、家庭事情の相談や資格の取得、勤務時間の変更等の申出がある。	現在、職員個別の年間目標の設定は行われていませんが、目標を設定して個別面談で評価するなどにより、職員がより積極的に業務に携る仕組みを検討することを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々各職員に対して時間外が発生しており、働きやすい環境を引き続き整備する必要がある。自分が勤務する職場がどうあるべきか、どう見直さなくてはならないか、それぞれに意見が出てやりがいを見出せているようだ。給与に関して気になる点については、直ぐに管理者へ相談が入り、法人事務局に確認・検討する機会を持ち、職員の不安を改善している。その日の体調に合わせ皆でカバーし互い協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修では、毎月の自己研鑽から自分なりに調べるという事を大切にし、自分が発表者・指導者としての役割を持たせ、職員間で互いに学べる環境づくりの構築に努めている。施設外研修については、参加の必要性がある内容については勤務を調整し、自ら学び施設に持ち帰り職員会議や復命書にて報告し、各職員間で確認し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修に参加する機会を作り、情報交換したり、交流を図ったりする場を設け学べる環境を作っている。そこから仕事に対する意識の向上に繋げるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人、家族様との面談を中心に家庭に訪問し生活状況について確認している。これまでの生活をどのように過ごし何を大切にしてきたか等確認し本人の生活に不自由がない為にもきちんと聞き取りを実施しお互いが安心出来る環境作り、希望を取り入れた本人への生活を大切にし共に支える場の提供としている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、家族様としての思いや、以前と今がどのように変化して来たか、そして、そこから何が見えてきたかという事を聞く事を大切にしている。施設での本人の生活についても詳しく説明し納得して頂いている。家族様がどのような生活を望むか、不安に思うことは何かという事も共有している。入居前には本人、家族様の目で施設を見学して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様との話し合いの内容を基に、現在必要としている事を見出し、職員間で検討し状況に応じた支援・対応に務めている。不安に思う事等を職員間で見極めながらその場での状態に応じた支援をどうするかという事も瞬時に判断出来る支援も提供している。生活習慣、気持ちの向き方も大切にしながら生活障害とならないよう支援し、出来る事への支援にも力を注いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住み慣れた場から施設での生活となる事から、状態に応じた対応、出来る事、出来ない事を見極め、負担を与えないよう支えていける環境作りを行っている。本人が安心して生活して頂く為に、生活維持に繋げ、介助が必要とされる部分に対しては適切に対応し、より良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	住み慣れた場から施設での生活に対する不安、窮屈さはあり、その中でも、本人としての生活がここで良かったと思えるよう些細な事、気持ちを分かち合いながら支えていけている。家族様には毎月お便りを出しており、どういう姿で生活しているかという事も解るよう提供している。面会・外出時も一時の家族様との団欒を大切に、共に支え合える関係性も築けている。		

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力も積極的であり、何かあると連絡を頂き相談されている。今まで培ってきた場所を大切にしながら家族様と共に過ごす時間を優先させている。また相手側に制限がなく、人混み・外泊等を控えて頂く事で、兄弟・友人・知人等と会う機会も提供している。玄関口での面会となってしまうが、来園された方と様々な話しをしている姿を耳にすると、本人としての安心感であったり、懐かしむ光景も見られている。	事業所としてのドライブは中断しているが、家族が協力的であり、通院以外にも外へ連れ出すことがあり、馴染みの場所や物との接触機会がある。知人からの手紙、電話での取り次ぎがあるほか、馴染みのパーマ屋さんに通う方もいる。	感染症の拡大に注意しながら、少人数でのドライブを行うなど、馴染みの人や場との更なる関係の継続、拡大に向けた取り組みを進めていかれるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に生活があり、施設での生活にも馴染め互いに助け合って生活されている様子が伺える。軽作業、奉仕活動していると自分もという思いに立ち行ったり教えながら支えて上げたり、とても暖かみのある利用者の方々ばかりです。職員も間に入り常に橋渡しをしながら良好な関係作りを実現している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様との関係も構築しており、慰問に来て頂いたりしていた。現在は実現されていないが、家族様としても良かったと言って下さり様々な形で交流を続けていきたいと考えている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり、本人、家族様の思いやどう生活を望んでいるのかという事を確認し、入居し生活していく中で利用者同士の会話、触れ合いを大切にすることで場の思いを引き出しながら内面に隠れている思いを大切にしている。職員会議、カンファレンスを通じて話し合いを大切に本人、家族様の希望に添えるよう支援している。	全員が自身の言葉で意思表示が可能である。認知症に起因して意思確認の都度、返事が異なることがあるが、思いは十分汲み取ることができ、その都度ケース記録として記入している。問題行動についても、家族には書面で伝えるようにしている。利用者同士のトラブルには職員が間に入り、穏やかな対応に努めている。利用者は塗り絵、トランプ、みなさんが一緒に出来る活動を希望される方が多く、できるだけ希望に応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、本人、家族様に聞き取りを実施し、これまでの生活歴を確認しフェイスシートを作成し職員間で情報共有している。生活する中で見えてくる事も本人のスタイルとして維持出来るよう支援している。関わりを重要視しながら相互の信頼感をより築くようにしている。		

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定、食事、水分、排泄のチェックを行っている。生活には欠かせず本人の体調管理、健康維持の為にも必要不可欠である。状態把握にも繋がり誰が見ても解るようシステム化している。ケース記録も大切にしており、職員間での情報共有にも繋がっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会議で評価している。担当を決めその人の目線でどうだったかという事を確認している。その後、不足している事は職員からの意見を反映させている。定期的にケアプランの見直しを行っている。面会に来られた家族様の意見も反映し、日常生活の中で本人の状態を確認しプランに活かしている。その後、家族様から同意書を頂いている。	入居時にのアセスメントに基づきプラン案を作成し、数カ月で見直しを行い、本人、家族からの意向を確認したうえで、職員全員で話し合い本プランとしている。毎月、支援経過を全職員に割り振りして評価している。以降6カ月毎に見直しを行い、家族、本人の意向を確認し、医療面でも必要に応じてかかりつけ医の助言を得てプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケア内容、また大切な事だけではなく、時系列で記録する事で何をしていたかという内容が読みとれるように記録している。職員との情報共有にも繋がりケアに対するズレが生じないように取り組んでいる。又、職員会議でケアプラン評価を行う事で更なる本人像が見えてきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活、家族様の面会からそれぞれの家庭環境を見極め、その状況に合わせたサービス、対応を行っている。家族様の面会もあり、一時の時間を有効化させ共に支え合える環境作りを実践している。その人にとって大切な場所、行きたい場所にも一緒に出掛ける事もある。通院も家族様に同行して頂き対応できない場合は職員が対応し、その場に応じた対応を行う事で家族様との信頼関係にも繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域行事にも参加しており、運動会、慰問(踊り等)、子供御輿、小学校への雑巾寄贈を行っていた。現在はなかなか地域へ出向く事が出来ず、いつか行ける日、来所して頂ける日を待ちながら日々過ごしており、周りの動向に目を向け安全で豊かな暮らしを計画し、楽しみを見出さなくてはと捉えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医へ継続的に受診されている。家族様に通院同行の協力も得られている。家族様通院の際は医師宛に通院情報提供書を作成し、医師へ確認して頂いている。連携を大切にしながら家族様にも安心して頂けるよう配慮している。また状況に応じては施設対応であったり家族様にも同行して頂き、一緒に医師の話しを聞いて頂いたりとお互いに情報共有に繋げている。医師、家族様、施設との連携を密にする事が重要とされる。	利用者は、入居以前からのかかりつけ医を受診しており、遠方からの入居者で通院に配慮して協力医を新たなかかりつけ医とした方もいる。皮膚科の訪問診療はあるが、原則的に通院している。家族の高齢化などで通院支援が難しい場合には、事業所の職員が同行している。医療機関には通院情報提供書を持参しており、連携も密に行われ、適切な受診が確保されている。また、提携している薬局から処方薬を届けていただいております。家族対応で、服薬の変更があったり、不明な点があれば、職員から医療機関に電話で確認するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師は居らず、緊急を要する際はかかりつけ医が勤務する看護師に状況を説明し、医師との間に入り遣り取りをして頂いている。また同法人看護師には利用者の予防接種・職員の各種健康診断、心肺蘇生等の研修を計り協力は得られている。今後、同法人看護師を施設に招き講習会実施の計画も上がっている。職員もある程度の医学知識を身につけており、状態に応じた対応は比較的スムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院を要する際は、医療機関、家族様への連携を密にしながら入院治療計画書の説明を聞き、治療方針、期間等の確認を行っている。また家族様、病院側より連絡を頂きながら状態確認している。早期退院に向け退院後の支援についても連携を図りながら本人にとっての不安を軽減させる支援と病院、家族様とのその後の状態についても連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、同法人で運営している特養への申込みは行って頂いている。重度化に伴い当施設での生活が困難となった際、または医師からグループホームでは難しいと判断をされた際は、出来るだけ住み替え出来る支援は行っている。最期に近い状態まで見てほしいという家族様の思いがある方もいる為、常に情報共有しながら対応させて頂いた事もあったが、決められた環境の中で出来る事は精一杯尽くしその人がここで良かったと言って頂けるよう対応はしている。	入居の際、介護度が高い方には特養への申し込みを提案しており、同じ法人の特養への申請を済ませている利用者もある。重度化に際しては、医療機関へ移送することを家族との話し合いで決めており、事業所として看取りの対応は行っていない。同じ法人の特養から異動した職員もいて看取りも経験していることから、他の職員への伝達研修は可能である。	

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成、ホーム内での研修を行いながら職員の意識を高め、瞬時に対応出来る体制を構築している。急変時等のケース記録も充実させ、申し送りの重要性から職員間での共有に繋げていく。誰もが同じ対応出来るよう日々共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルの作成、定期的に避難訓練を実施している。年1回、消防署員立ち会いのもと訓練を実施しており、一連の動作の確認をして頂いている。また助言を頂き次ぎの訓練に活かしている。拠点として地域の災害協力員の体制も整えられており、有事の際は協力頂ける体制が構築されている。	災害時の対応マニュアルを作成しており、5月に避難訓練、10月には消防署立ち合いの総合訓練も実施している。消防署からは非常口を優先すること、避難場所が施設に近いことなどについての指摘があり、次回には改善することとしている。ハザードマップ上特に危険地域ではないが、土砂崩れには気を配っている。食料品を備蓄し発電機も常備しており、地域の災害協力員の協力体制も万全となっている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、禁句マニュアルを作成しており、日頃の仕事に活かしている。また自分の振り返りにも繋がり、日々確認し合いながら仕事に繋げている。利用者個々の思いを聞きながら、思いを受け止め、尊重し対応している。決して一人歩きはせず思いの裏側までみるよう対応している。	各マニュアルは毎年担当を決めて見直しを行い、適宜加除している。食事直後に下膳することで利用者を急かしてしまうこと、入浴時の同性介助の希望の確認などへの対応など、日常のコミュニケーションから要望を傾聴し、気づきを大切にして意見を出し合い、プライバシーや尊厳の維持に努めている。利用者の個人情報に係る書類等は鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者個々の思いが出せるよう努めている。自分の言葉として出す事で意欲向上、不安除去にも繋がっている。話せないからという事ではなく、表情、体動からも大きな発信となっている為、受け止めながら対応している。雰囲気作り、言い出せるようアプローチも重要視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の特徴を把握し、余暇活動も大切にしており、自分から何かしたいという声も聞かれ選択肢を与えながら対応している。何か支障が出ない限り、本人のペース、思いに合わせて支援している。何かあれば声かけて手伝うからという声も聞かれ、それが本人の遣り甲斐に繋がっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えを選択し着ている方もおられ、入浴や起床時に本人の希望を聞き入れながら、職員が季節やその場に合った衣類を準備し選んで頂いている。洗顔、整髪は声掛けにて行っており、出来ない部分はお手伝いし対応している。お化粧に時間を費やし、身だしなみを整えられる方も居られ、支障が発生する場合は声掛けする等、本人に配慮した対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好は把握出来ている。入居する際聞き取りを行い把握している。毎食時、職員が手作りし必要な食材等を購入しているが、12月より栄養士によるカロリー計算された、湯煎・流水解凍による食材の導入も検討しており、今まで利用者方が手伝ってくれていた、盛りつけ、片づけを無くす事のないような対応を検討しているところだ。	現在は職員が交代で調理し、利用者にはおいしいと好評を得ている。職員不足の状況もあり法人の方針で、12月から外部業者による食事の提供が予定されている。おやつ作りや行事食などは今後も継続されることから、今までどおり盛り付けや片付けの作業を共に行い、食事の機会を楽しむことができると期待している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせた食事の提供を行い、食形態も重要としており、その日の体調に合わせた形態変更も実施し、少しでも食べて頂けるよう工夫、安全に配慮しているが、12月より栄養士によるカロリー計算された、湯煎・流水解凍による食材の導入も検討し、職員、同法人栄養士の負担軽減を検討している。代替え食の用意も検討しなくてはならないと捉えている。日々の食事量、水分摂取量をチェックし状況に応じて水分を多く摂って頂いたり対応している。状況について職員間での共有を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施している。衛生には特に気を配っており、感染防止にも繋げている。口臭がある方には家族様と相談し歯科通院を勧めている。通院する事で口臭除去となっている。就寝時には入れ歯を預かり洗浄剤につけ消毒し衛生管理にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に排泄表を作成しており、排泄パターンは確認出来ている。殆どの方が尿取りパットを使用しており、声掛けでの誘導、自分からの訴え、リハビリをしながらその後トイレ誘導を工夫しながら対応している。現在オムツ使用者は居らず、半数の方が自力での排泄を行い、半数の方がトイレ誘導や声掛けなど一部介助を必要とされ、出来るだけ不快な思いをさせないように支援している。	チェック表を活用して、静かな誘導を行う場合もあるが、半数は自発的にトイレを利用することができている。入院中の2名を除く7名のうち4名が布パンツ、3名が紙パンツであり、夜間のポータブル使用者はいない。入居後にオムツからリハビリパンツに改善が見られた利用者もあり、自立に向けた支援が続いている。機能的にトイレでの排泄が可能な方は、安易にオムツ使用にはしないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での工夫、身体を動かす工夫を計画しながら少しでも便秘解消に繋げようと努力している。なかなか改善は難しいものの、便秘の不安、不快、生活の不自由さ、体調不良とならない為にも、医師への相談、指示もあり個別的な対応で排便に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前は毎日入浴を実施していたが、現在は職員数の配置により「日曜日」が休みとなる事が多く、「月曜日～土曜日」午前・午後に入浴を計画している。出来るだけ入浴は楽しみの一つとなれるようにしている。同姓介助者を希望する方が居られる場合は、本人の希望に沿った対応も実施している。またその日の状態、体調変化に合わせた入浴方法も提供しており、入れないという事ではなく少しでも生活の一部として大切なものと理解し対応している。	日曜日を除く毎日、入浴の時間があり、利用者は週2回から4回入浴することができている。先日は、柚子の差し入れがあり、柚子湯を楽しむことができた。入浴は職員とのコミュニケーションの場でもあり、会話を楽しみ、意向を聞き取る機会としても有効な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の睡眠パターンは把握出来ている。日中、自分で居室へ戻られ休まれたり、テレビを見たりと自分の世界観に入っている方も居られ、夜間どうしても寝付けずにいたりする事も有る為、会話をしたり飲み物を提供したりする事で睡眠に近づけられている。本人がどうしたいかという事を大切に支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 福光園グループホーム フクちゃんハウス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の状態は常に把握出来ている。通院時の記録、日々の記録を確認しその場で減薬しながら対応している方もおられる。通院時家族様、職員からの報告、薬の説明、目的、副作用についても職員間で知識を共有している。家族様が通院する際、口答ではなく医師宛に情報提供書を作成し確認して頂き処方して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分から何かしたいという言葉も聞かれる為、余暇活動、奉仕活動等を手伝って頂いている。またひとりの利用者は俳句を趣味とし、俳句の募集記事があると職員を介して、応募しようとそれに向けて集中して作品を作り上げる状況もある。ご家族様の協力も大きく、一緒に出掛けたり、買い物したりと少しでも気分転換を計られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は外出の制限はしておらず、季節に応じ桜の咲く頃には、施設駐車場に出て桜並木を散策したり、家族様がご利用者の気分転換を計る目的に紅葉見物、買い物、自宅、縁故関係者宅まで外出するなど、様々に計画立てて頂き、その計画に添えるよう、職員がご利用者の体調管理・心身の安定に気を配る状況がある。	コロナ禍を踏まえ、外部からの入室は制限しているものの、外出の制限は緩和しており、家族の協力を得て頻繁に外出する利用者もいる。少人数でのドライブは実現していないが、周辺を散歩する機会はある、職員とともに敷地内での花見などを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いとして預かっている。帳簿につけており、毎日残金の確認を行っている。利用者個々がお金を持つという事は家族様の同意のもと行っていないが、少しでも持たせたいという際も家族様の同意、施設からのお願もお伝えし了承して頂いた上でやっている。必要物品については家族様が購入して頂いたり、電話しお願いしたりしている。また施設側で購入する場合も多くある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様より定期的到手紙を頂いてる方もおり楽しみとなっている。利用者から電話したいという希望があれば連絡出来る支援はしている。家族様からの電話では本人へ取り次ぎ話しをされている方もおられる。声を聞くだけでもお互いに安心感が得られているようである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、天候に合わせて共有空間(食堂、居室、廊下、トイレ)は空調、加湿器で調整している。また、照明については利用者からの声を大事にし、不快感を与えないよう対応出来ている。廊下にも椅子を置いており、自由空間を大切にいつでも誰もがくつろげるスペースとしており活用も大いにある。	共有の空間には、テーブルと椅子、ソファ、テレビなどが備えられ、エアコン、ヒーター、空気清浄機、加湿器などで調整が図られている。全体が明るく、清潔に保たれており、壁面には手作りの貼り絵、塗り絵が飾られ、クリスマスなど季節に応じた飾り物もあり、それぞれが穏やかに過ごすことのできるスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で過ごされる方が殆どであり、利用者同士の会話も見られている。笑い声や、心配する声も聞かれお互いに気遣うようになっている。自分でここがいいと言って寛いでいたり自分の居場所の確立が出来ている為、不安は少ない状況である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に居室の確認は行って頂いている。自分が過ごす居室として使用する訳だが、何が重要かという事は話し合って準備されている。お位牌を持って来ている方も以前はおられた。また、馴染みの写真、物品を持って来られ、いつまでも忘れずに自分が大切に使用していた物を肌身離さず、手元に置かれている。不足な物については家族様に準備して頂いている。	居室には、ベッドと洗面台、クローゼット、ミニテーブルと椅子が備え付けてあり、エアコンと加湿器で温度湿度を調整している。利用者は馴染みのテレビや衣装ケース、位牌や家族の写真などを持ち込んでいる。毎週のリネン交換と清掃で清潔に保たれており、安心できる居心地の良い場所となっている。利用者の希望で掃除を手伝う方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体バリアフリーとなっており、安心して生活出来るようにしている。廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。廊下には椅子を置き一時的な休息や、自分の憩いの場となっている。廊下の幅も広く不自由さがないようになっており、障害物も出来るだけ少ないようにしている。自分の居室には名札をつけ自分の部屋という事の認識と安心感を与えられるようにしている。		